

HAVEN ～堕ちた楽園～

2006(平成18)年11月11日鑑賞(ホクテンザ1)

★★



監督・脚本＝フランク・E・フラワーズ／出演＝オーランド・ブルーム／ビル・パクストン／アグネス・ブルックナー／スティーヴン・ディレイン／ゾーイ・サルダナ／ラズ・アドティ／ヴィクター・ラサック／アンソニー・マッキー／ジョイ・ブライアント（アートポート、ギャガ・コミュニケーションズ配給／2005年アメリカ映画／98分）

……住民に税金が免除されるタックス・ヘイブンの島の中でくり広げられる物語のテーマは、カネ、ドラッグ、セックスそして純愛……。島に持ち込まれた大量の現ナマの行方は……。そして、イケメンスター、オーランド・ブルームの顔に硫酸をぶっかけてまで追求した純愛の結末は……。監督の生まれ育った島を広く紹介するのは楽しいだろうが、「13日の金曜日」の収束に向けて、もう少し全体のまとまりをつけなければ……。

オーランド・ブルームの異色作……？

『ロード・オブ・ザ・リング』3部作でエルフ族の美しき弓の名手レゴラス役に大抜擢されたオーランド・ブルームは、その後『パイレーツ・オブ・カリビアン』(03年)、『トロイ』(04年)、『キングダム・オブ・ヘブン』(05年)等の大作に次々と出演し、今やハリウッドの若手トップを争うハンサムスターに急成長。そんな彼が自らプロデュースしてまで、なぜかケイマン諸島生まれのフランク・E・フラワーズ監督の長編初監督作品に出演。それなら、当然主役を張って登場、と思っていたらそうではなく、数名の登場人物の中の1人シャイ役という扱い。そんな役であっても彼がこの映画に出演することを希望したのは、パンフレットによれば、「この作品は、『ロミオとジュリエット』や『ウエスト・サイド物語』のような悲劇の恋愛物語で、『アモーレス・ペロス』や『シティ・オブ・ゴッド』のように3つの話が平行して進み、最後に一つにつながるという内容は、僕が映

画館で好んで見る作品だよ」とのことだが、さてそんなチャレンジの成否は……？ 私はかなりマイナス評価だが、異色作であることはたしか……。

タックス・ヘイブンは……？

小泉改革の中、日本でも「特区」の考え方が浸透したが、特区中の特区がタックス・ヘイブン。つまり、これは住民に税金が免除される特区のこと。すると、そこには世界中の金持ちたちが集まってくるのが当然……？ パンフレットによれば、①ケイマン諸島はコロンブスによって1503年に発見され、1670年から公式にイギリスの領土となった、②給料や経営に直接的に税金がかからないので、島は海外の繁栄した金融センターとなっている、③1998年のデータによると600の銀行、信託会社など4万社以上の会社がケイマン諸島で登録しており、島の銀行資産は5000億ドル以上になる、④富豪の投資家や金融機関が集まっているので、一人当たりの所得率は高く、生活水準は世界の中でも高い、とのこと。

「僕」の生まれ育った島、ケイマン諸島

ショートフィルム『SWALLOW』を経て、この映画で長編映画にデビューした監督は、何とケイマン諸島出身のカリブ人とのこと。パンフレットには、そんな彼が生まれ育ったケイマン諸島の興味深い実態や生活ぶりが解説されているが、それを読むと彼はまだ30歳代くらいの若者……？ すると、この映画に登場する島で生まれ育った青年シャイという役柄はフランク監督そのもの……？ そしてシャイとアンドレア（ゾーイ・サルダナ）との恋物語も監督自身の体験……？ さらに一見何の脈絡もなく展開されていくいくつかの物語は、すべて監督自身が見聞してきたことの集大成……？ 彼はこの脚本を3日で書き上げたいらしいが、オーランド・ブルームがシャイ役で出演することが決まった後、彼との打ち合わせでシャイの人物像がかなり変化したらしい。しかし、その成否は……？

物語の第1の軸は「脱税」！

映画の冒頭、シャイがケイマン島らしき海の中で土着の娘らしき女性と戯れているシーンが登場するが、それは一瞬で突然物語はマイアミに移り、いきなり有

能なビジネスマンのカール・リドリー（ビル・パクストン）が脱税容疑でFBIの家宅捜索を受けるという緊迫したシーンに……。FBIの突入（？）をFAXで知らせたのは、カールの脱税指南をしていたやり手弁護士アレン（スティーヴン・デイレイン）の秘書シェイラ（ジョイ・ブライアント）。間一髪之差でかき集めた現金100万ドルを持って自宅を出たカールは、直ちに学校にいる愛娘ピッパ・リドリー（アグネス・ブルックナー）を連れてアレンのいるケイマン島へ脱出。ホテルに入ったカールは直ちにアレンと連絡を取ろうとしたが、期待に反してなぜか連絡がないうえ、いきなりマイアミでの友達や思い出をすべて奪われて無理矢理ケイマン島へ連れてこられたピッパはおかんむりなので、イライラの毎日……。

そんなカールはとりあえず持ち込んだ現金を隠さなければならないが、さてそれはどこへ……。？ まず第1にその隠し場所に注目を……。そして第2に、カネに絡んだ事件には仲間割れが起こることが多い。アレン弁護士は本当にカールの味方、それとも……。？ そんな点にも注目を……。

物語の第2の軸はシャイとアンドレアの純愛！

中盤になって、おもむろにオーランド・ブルーム扮する若者シャイが登場する。彼は観光客を乗せる船で働いているが、シャイと呼ばれているのは、父親が撲殺されるのを見て無口になってしまったためらしい……。そんなシャイの恋人アンドレアは、シャイが働いている会社のボスの娘。もちろん、父親は娘がシャイと交際していることなど知る由もないし、兄のハンマー（アンソニー・マッキー）は陰気なシャイを嫌っていたから、2人の交際がバレたら大ゴトに……。

ところがある日、父親たちが留守になったのをいいことに、大胆にもアンドレアはシャイを部屋に招き入れていいコトをした後、朝まで寝込んでしまったから大変。脱出していくシャイを捕まえることこそできなかったものの、父親は娘が無理矢理レイプされたというストーリーをデッチあげたうえ、全力をあげてシャイを訴えることに。さらに、それでも気持ちが収まらないハンマーは、ある日シャイの顔に硫酸をぶっかけたから、あのイケメン俳優の左顔面にその傷痕が残ることになった……。以降、身体だけではなく精神的にも深い傷を負ったシャイは、隠遁生活を送るようになったため、今なおシャイを恋い慕うアンドレアは、罪の

意識からドラッグとセックスに溺れる生活に……。そんなアンドレアの姿を見たシャイは大きく動揺したが、ハンマーはさらに追い打ちをかけるべくシャイに襲いかかった。遂に堪忍袋の緒が切れたシャイは、入手した銃を手に……。『ロミオとジュリエット』のように恋人たちの悲劇は拡大し、また『ウエスト・サイド物語』のように若者たちの抗争はエスカレートしていく……？

島の若者たちの生態は……？

このケイマン諸島の若者たちは外に出ていくことはないが、島を訪れてくる観光客はたくさんいるから、結構楽しそう……。突然都会から島にやってきた美しい女の子である、カールの一人娘ピッパに目をつけたのはホテルの従業員の息子で、えらく調子のいい若者リッチー・リッチ（ラズ・アドティ）。ナンパ目的がミエミエのリッチーだったが、この際ピッパは相手が誰でもよかったのか、早速リッチーと一緒にパーティーへ……。もちろん、1回限り、1日限りでオチるわけではないが、リッチーの下心はミエミエ。ところが、ある日リッチーは父親のカールが大量の現金をあるところに隠している姿を目撃したため、それからは色気だけではなく欲も突出することに……。そのため、リッチーは島の若者たちと共謀してそれを狙う手筈を整えていったが……。

この映画のキーワードはカネ、ドラッグ、セックス+純愛……

このように、この映画はオーランドの主演ではなく、カネと純愛と欲望の物語が混在し最後にそれが1つに収束していくというスタイルを取っている。さしずめ、そのキーワードは、カネ、ドラッグ、セックス+純愛といったところ……。

他方、キリスト教徒にとって「13日の金曜日」は最悪の日だが、なぜかこの映画はその「13日の金曜日」に向かって収束していくことに……。すなわち、カールの脱税事件とシャイの「レイプ事件」の2つを軸として、島内の若者たちが次々と引き起こすさまざまな事件を、一見何の脈絡もないままスクリーン上に表示し、それがラストにはうまく収束していくことを狙っているわけだ。しかし、私の目にはそれが必ずしも成功しているとは思えず、ラストは何とも尻切れトンボ……。さて、あなたの採点は……？

2006(平成18)年11月17日記

出会いを大切に！—突然朝食会—

映画は、ある日ある時の男女の出会いから始まるものが多いが、出会いの大切さは男同士も同じ。

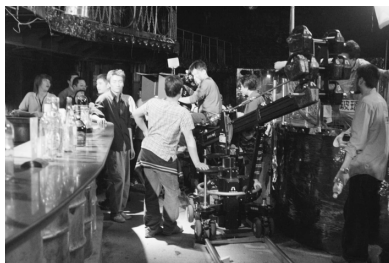
東京と大阪に事務所をもち、エンゼル証券の代表取締役をしている旧知の友人で公認会計士の細川信義氏は幅広い人脈を誇り、東京・大阪等で「突然朝食会」や「突然アフタヌーン会」を主催している。毎回テーマに沿った講師を招いての20名前後の会合だが、07年5月8日の東京での朝食会には、私が映画をテーマに講演することに。そこで知り合ったのが、北京電影学院客員教授の肩書をもつ古澤敏文氏。北京電影学院は、文化大革命終了後、チャンイーモウ チェンカイコー張藝謀、陳凱歌監督らが第1期生として卒業した、いわば中国最高峰の国立映画大学。中国大好き・中国映画大好き人間の私は、03年11月の北京旅

行の際、わざわざここを訪れ、女子学生と並んで写真を撮ったもの（『シネマールーム5』19頁参照）。映画の話で意気投合した2人は、彼が5月27日に来阪した時、食事しながらじっくりと話し合い、今後の活動の協力を約束し合うことに。私の夢の1つは、中国映画に関する評論を中国語に翻訳し、中国で販売すること。それに向けた第一歩として、今年10月には私が北京電影学院の教壇に立ち、学生たちに特別講義をする計画が浮上し、目下その実現に向けて調整中。ホントにそれが実現したらすごいこと。そんな楽しい構想もすべて人との出会いが出发点。ホントにすばらしき人たちとの出会いは大切にしなければ……。

2007（平成19）年7月11日



北京電影学院客員教授の辞令を手にする古澤敏文さん



北京電影学院での撮影実習の授業風景